

テーマ	『関係機関・家庭・学校の多層的な連携による未然防止を 意識した支援体制の構築』
-----	--

1 達成に向けた手立て

<ul style="list-style-type: none"> ○家庭訪問の実施と担任との共同 <ul style="list-style-type: none"> ・担任とSSWが同行して家庭訪問を行うことで、家庭の生活実態を多角的に把握し、学校との信頼関係を再構築 ・訪問のタイミングや事前情報の共有を徹底。保護者の心理的ハードルを下げるアプローチを行う（SSWが昼間・担任教師が夕方など） ○学内における相談機能を強化し、教職員へのメンタルサポートを行う <ul style="list-style-type: none"> ・SSWが定期的に教職員との面談や情報交換の場を設け、クラスの状況だけでなく、担任自身の困り感やメンタルヘルスも意識した支援を行う ○「SSWだより（通信）」による普及啓発と早期発見 <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な情報発信を通じて、SSWの役割や活用方法を周知する。特に休み明けなど不登校傾向が出やすい時期に合わせ、家庭での見守りのポイント等を掲載し、潜在的なニーズの早期掘り起こしを図る ・また、SSWだよりとSCだよりを合体したお手紙の配布で、それぞれに違いの明確化を行う

2 取組の成果と課題

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ○面談件数の増加 <ul style="list-style-type: none"> ・SSWへの相談が増加することで、担任一人で抱え込まずにチームで対応する意識がつけられた。その結果、教職員との面談機会が増え、生徒の小さな変化を共有できるようになった。 ○居場所の確保と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・フリースクールや放課後デイサービス等の関係機関と連携することで、不登校傾向にある児童生徒に対し、学校以外の学びや交流の場を提示することができた。 ○情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・「SSW通信」の配布により、保護者や教職員がSSWに相談するハードルが低くなり、相談の有効活用が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関、放課後等デイサービス、福祉分野との連携における役割分担の明確化 ●特定課題への専門的アプローチ <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム依存や生活リズムの乱れ（昼夜逆転）を抱える生徒への家庭内での具体的な声掛けや環境調整に関する支援スキルの向上が必要 ●連携ルートの整理 <ul style="list-style-type: none"> ・言語通訳が必要な家庭や、生活保護世帯等への複雑な背景を持つ家庭に対し、どの機関が主導権を持つかの判断基準の整理

3 次年度に向けて

<ul style="list-style-type: none"> ○「チーム学校」としての連携 <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連絡方法を検討し、情報共有体制を構築する。 ・SSWだよりの活用とコンテンツの充実を図る。 ・次年度も継続して作成し、SNSやゲーム依存防止、不登校支援の事例紹介など、保護者・教職員が「今知りたい」情報をタイムリーに発信する。
--